

佐野短期大学シラバス2014

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
学校と社会 School and Society		1年・2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	特になし	
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
藤原保利	本館2F	火・水・木・金 (9:00~16:00) (授業時間は除く)		授業中に指示します
授業の概要				
現代社会が抱えている様々な教育的諸問題を学校と社会との関係で考察する。その諸問題とは、学級崩壊、いじめ問題から、教育の格差、教育改革等々に至るまで多くの問題を抱えており、大きな社会問題になっている。そこで本講義では、「学校は社会を変えられるか」をメインテーマに、学校再生の方途を考える。				
授業の目標				
①現代社会が抱える教育諸問題である、学級崩壊、いじめ、教育(学力)の格差、希望なき受験体制、児童・生徒の変容等について正確にその実態を捉えることができるようにする。②学校教育の制度(6・3・3・4制)、教育行政の制度(文科省・教育委員会)、教育内容の制度(学習指導要領・教科書検定制度)、教員の養成制度(教員の使命、資質・能力)の問題点を指摘することができるようにする。③「学ぶ」、「働く」、「生きる」ということの意味と意味を学校教育で具現化する方法的視点を探求することができるようにする。				
授業の方法				
講義科目ではあるが、可能な限りディスカッション、発表、事例研究を取り入れた、学生主体の授業とする。				
学習の成果(学習成果)				
①現代社会が抱える教育的諸問題を、社会的、経済的視点から分析し、その問題点を正確に述べることができる。②近代以降の我が国の教育の諸制度を歴史的に振り返り、学校教育が社会において果たしてきた機能と役割を、またその問題点を事実に基づいて実証することができる。③学校と社会が抱えるその病理的現象を克服する学校再生の方途を提示することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス・概要説明 レポートのテーマ及び提出期限等の説明			
第2回目	学校制度の歴史(1) 明治・大正時代 昭和前期			
第3回目	学校制度の歴史(2) 昭和後期～現在 戦後の教育改革 教育基本法の改正 新自由主義と教育			
第4回目	学校制度の歴史(3) 試験と競争の学校史(試験の社会史) 希望なき受験競争 階層と学力			
第5回目	教育行政の制度(1) 国(文科科学省)と地方(教育委員会)の教育行政制度			
第6回目	教育行政の制度(2) 教育行政制度の今日的課題			

第7回目	教育職員の制度(1) 教職の意義と教員の使命・資質・能力		
第8回目	教育職員の制度(2) 教師と教員 教師像と教職の今日的課題		
第9回目	教育内容の制度(1) 教育課程と学習指導要領		
第10回目	教育内容の制度(2) 教科書検定・採択制度 教育内容制度の今日的課題		
第11回目	学級崩壊(1) 学級崩壊とは 「授業不成立」現象としての学級崩壊		
第12回目	学級崩壊(2) 日本的「学級」経営システムの見直し 学びから「逃走」する子どもたち		
第13回目	いじめ問題(1) いじめとは(文科省の定義) いじめの類型と構造		
第14回目	いじめ問題(2) いじめはなくせるのか 試験		
第15回目	社会が抱える教育諸問題の総括		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
	授業参加態度	20%	教材を準備して授業に臨んでいる。ディスカッションの場で自分の意見を述べることができる。授業に集中し、ノートをきちんととっている。不明な点があれば積極的に質問する。
	レポート	20%	詳細に課題を探索し、内容構成もしっかりとしており、課題の要件を十分に満たしている。
	調査報告書		
	小テスト		
	試験	60%	論述式である。設問に対する要求を十分に満たしている。授業内容の範囲を超えて、自分の考え方も示されている。
	発表内容(態度含む)		
	その他		
教科書と参考図書			
教科書は使用しない。参考図書は授業中に適宜紹介する。			
履修上の留意点・ルール			
積極的に授業に臨むこと。遅刻厳禁。飲み物等持ち込み禁止。			